

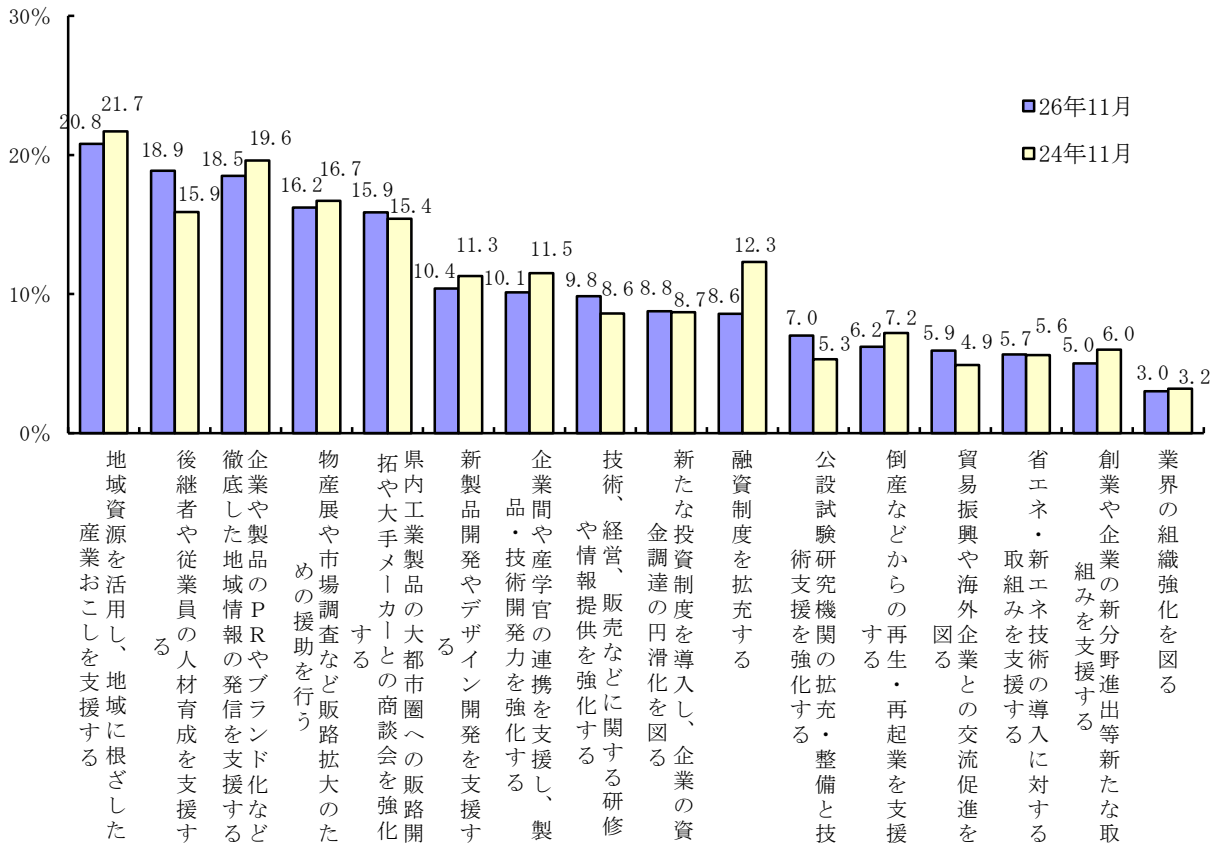
問26 中小企業対策

あなたは、県内の中小企業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。
(複数回答) (%)

1	新製品開発やデザイン開発を支援する	10.4
2	公設試験研究機関の拡充・整備と技術支援を強化する	7.0
3	物産展や市場調査など販路拡大のための援助を行う	16.2
4	県内工業製品の大都市圏への販路開拓や大手メーカーとの商談会を強化する	15.9
5	貿易振興や海外企業との交流促進を図る	5.9
6	技術、経営、販売などに関する研修や情報提供を強化する	9.8
7	企業や製品のPRやブランド化など徹底した地域情報の発信を支援する	18.5
8	融資制度を拡充する	8.6
9	新たな投資制度を導入し、企業の資金調達の円滑化を図る	8.8
10	業界の組織強化を図る	3.0
11	企業間や産学官の連携を支援し、製品・技術開発力を強化する	10.1
12	創業や企業の新分野進出等新たな取組みを支援する	5.0
13	後継者や従業員の人材育成を支援する	18.9
14	地域資源を活用し、地域に根ざした産業おこしを支援する	20.8
15	倒産などからの再生・再起業を支援する	6.2
16	省エネ・新エネ技術の導入に対する取組みを支援する	5.7
17	その他	0.5
18	わからない	11.6

県内の中小企業をもっと盛んにするためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「地域資源を活用し、地域に根ざした産業おこしを支援する」と答えた人が20.8%と最も多く、以下「後継者や従業員の人材育成を支援する」(18.9%)、「企業や製品のPRやブランド化など徹底した地域情報の発信を支援する」(18.5%)、「物産展や市場調査など販路拡大のための援助を行う」(16.2%)などの順となっている。

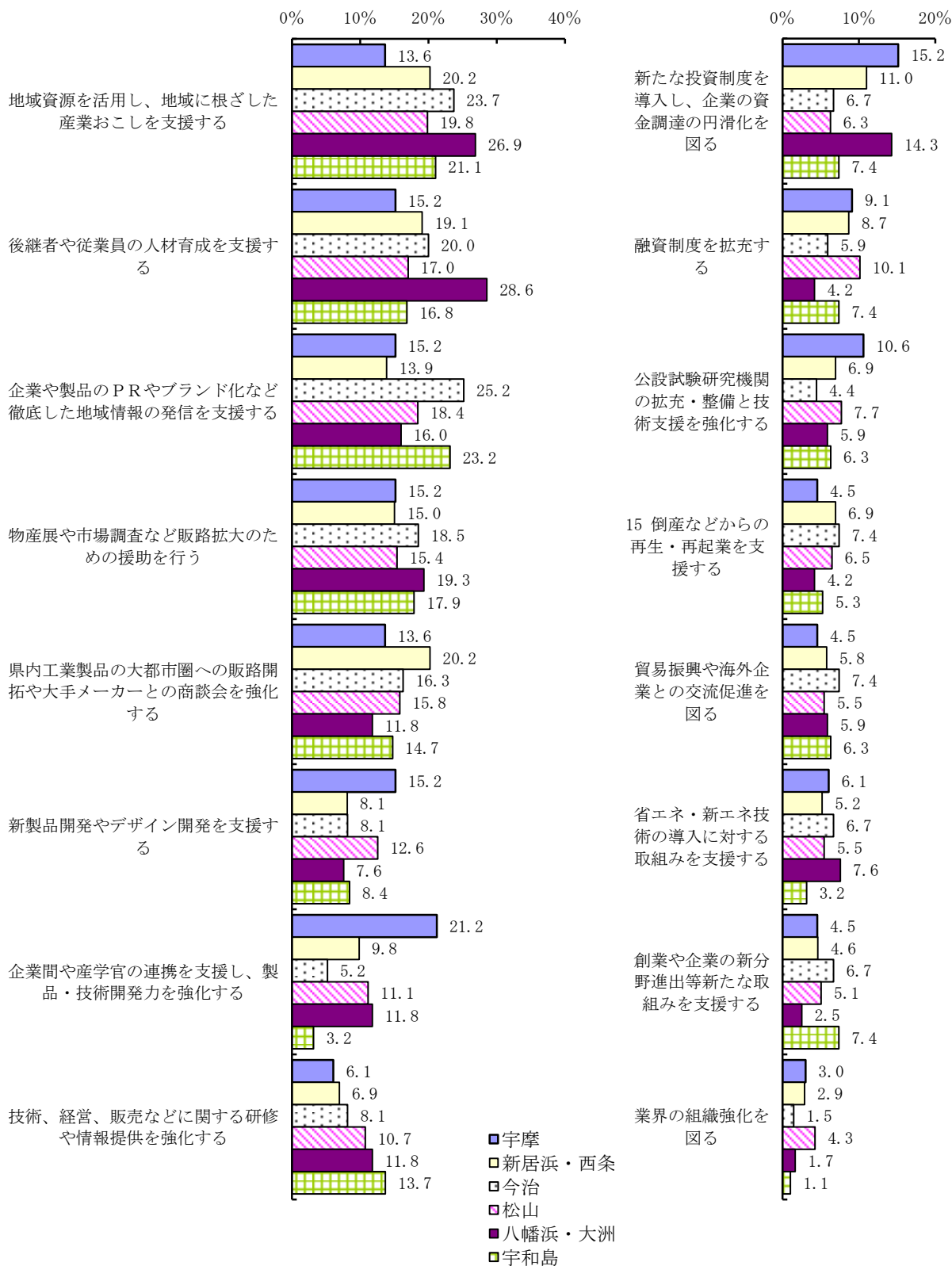
前回調査と比較すると、「後継者や従業員の人材育成を支援する」が3.0ポイント増加し、「融資制度を拡充する」が3.7ポイント減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域及び松山圏域では「地域資源を活用し、地域に根ざした産業おこしを支援する」が最も多いが、新居浜・西条圏域では「県内工業製品の大都市圏への販路開拓や大手メーカーとの商談会を強化する」も同率で最も多くなっている。八幡浜・大洲圏域では「後継者や従業員の人材育成を支援する」が最も多く、今治圏域及び宇和島圏域では「企業や製品のPRやブランド化など徹底した地域情報の発信を支援する」が最も多い。宇摩圏域では「企業間や産学官の連携を支援し、製品・技術開発力を強化する」と答えた人の割合が最も多く、他の圏域と比較しても特に多くなっている。

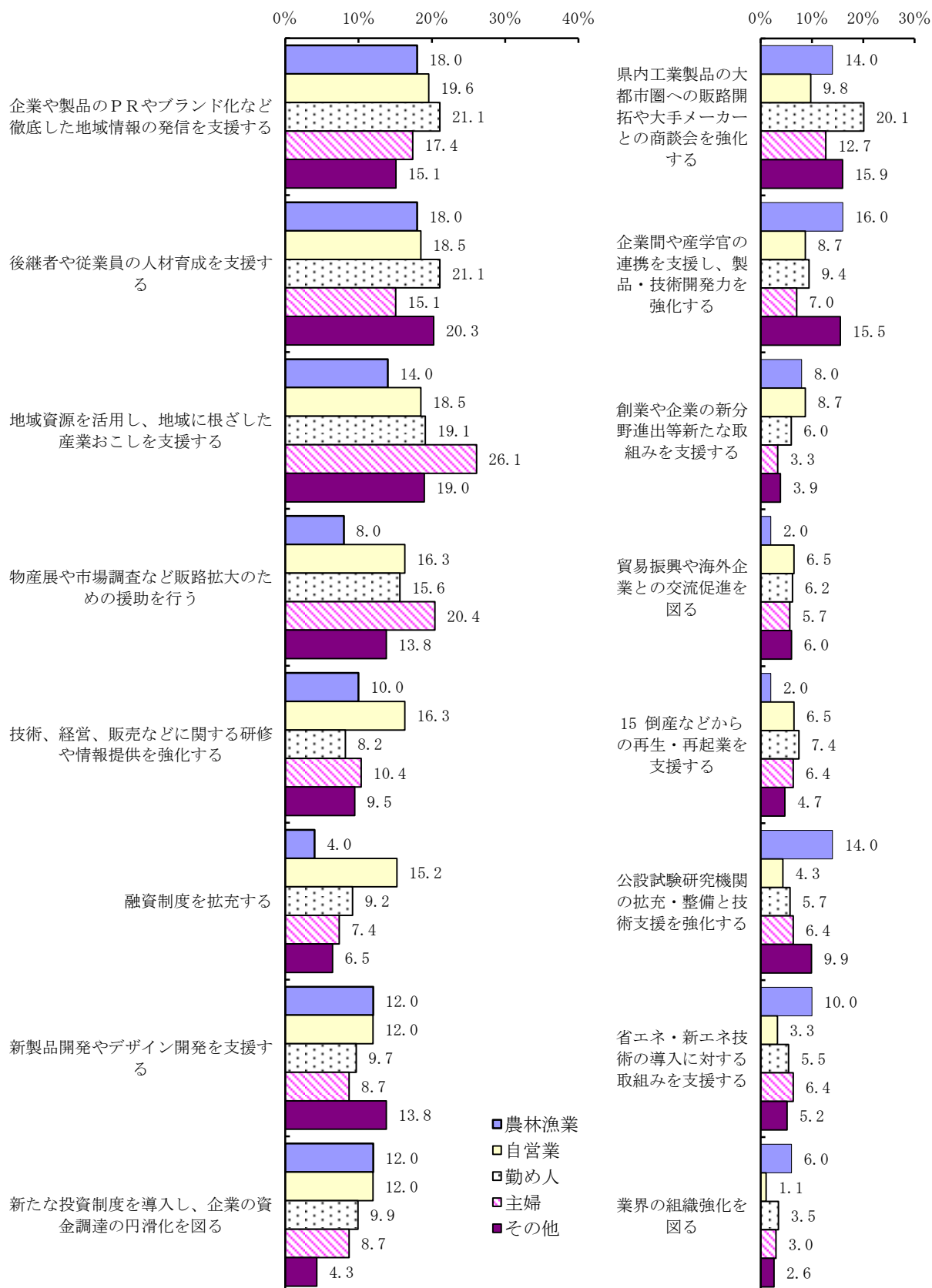
また、「後継者や従業員の人材育成を支援する」と答えた人の割合は、八幡浜・大洲圏域で28.6%と他の圏域と比較して特に多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業、自営業及び勤め人では「企業や製品のPRやブランド化など徹底した地域情報の発信を支援する」と答えた人の割合が最も多いが、農林漁業及び勤め人では「後継者や従業員の人材育成を支援する」も同率で最も多く、その他では「後継者や従業員の人材育成を支援する」が最も多くなっている。

主婦では「地域資源を活用し、地域に根ざした産業おこしを支援する」が最も多く、他の職業と比較しても多い。



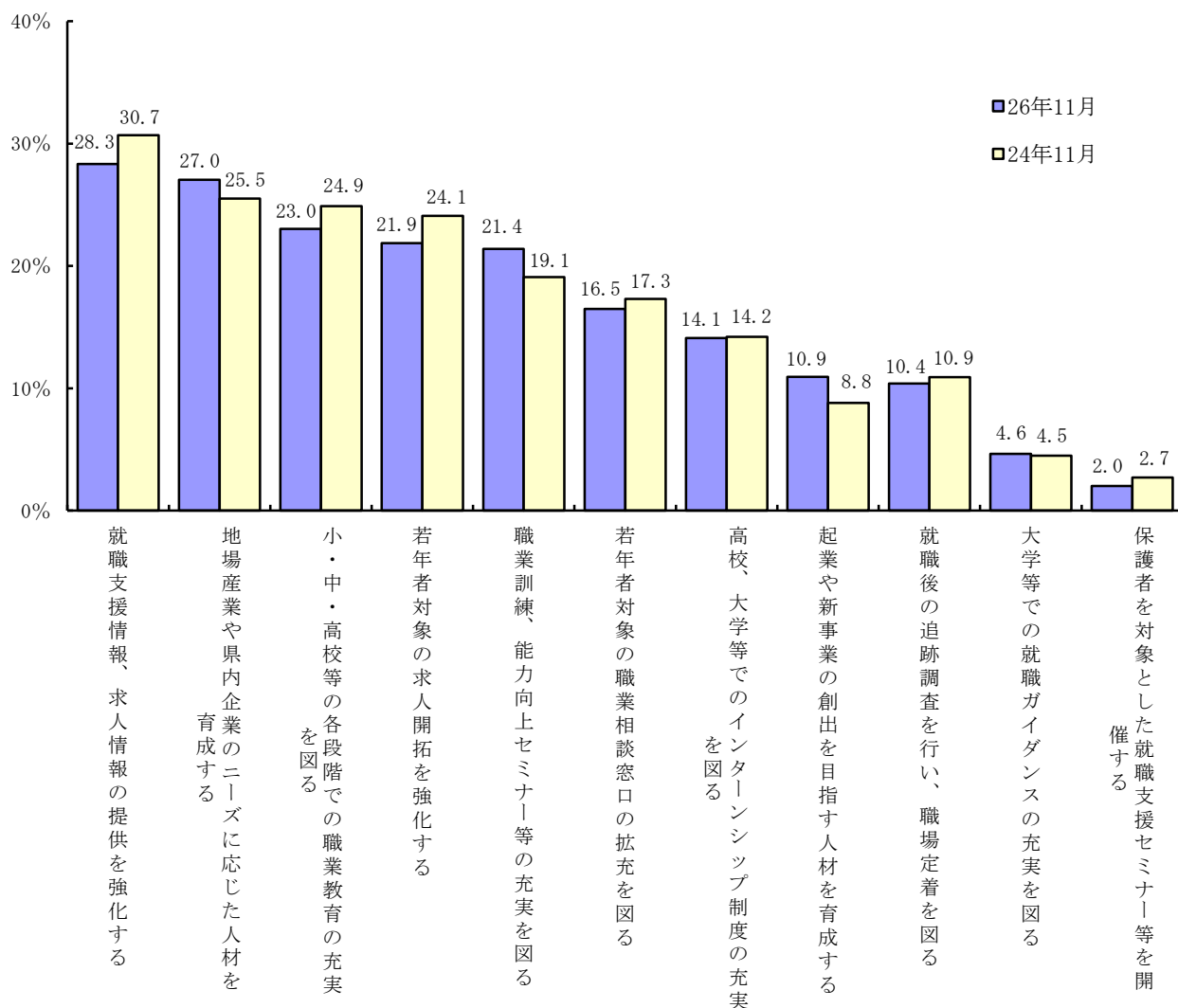
問27 若年者雇用対策

あなたは、県内の若年者（おおむね35歳未満）の就職促進、離職防止を図るために、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から**二つまで選んで**番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 小・中・高校等の各段階での職業教育の充実を図る		23.0
2 大学等での就職ガイダンスの充実を図る		4.6
3 高校、大学等でのインターンシップ制度の充実を図る		14.1
4 就職支援情報、求人情報の提供を強化する		28.3
5 職業訓練、能力向上セミナー等の充実を図る		21.4
6 若年者対象の求人開拓を強化する		21.9
7 若年者対象の職業相談窓口の拡充を図る		16.5
8 保護者を対象とした就職支援セミナー等を開催する		2.0
9 地場産業や県内企業のニーズに応じた人材を育成する		27.0
10 起業や新事業の創出を目指す人材を育成する		10.9
11 就職後の追跡調査を行い、職場定着を図る		10.4
12 その他		2.5
13 わからない		5.5

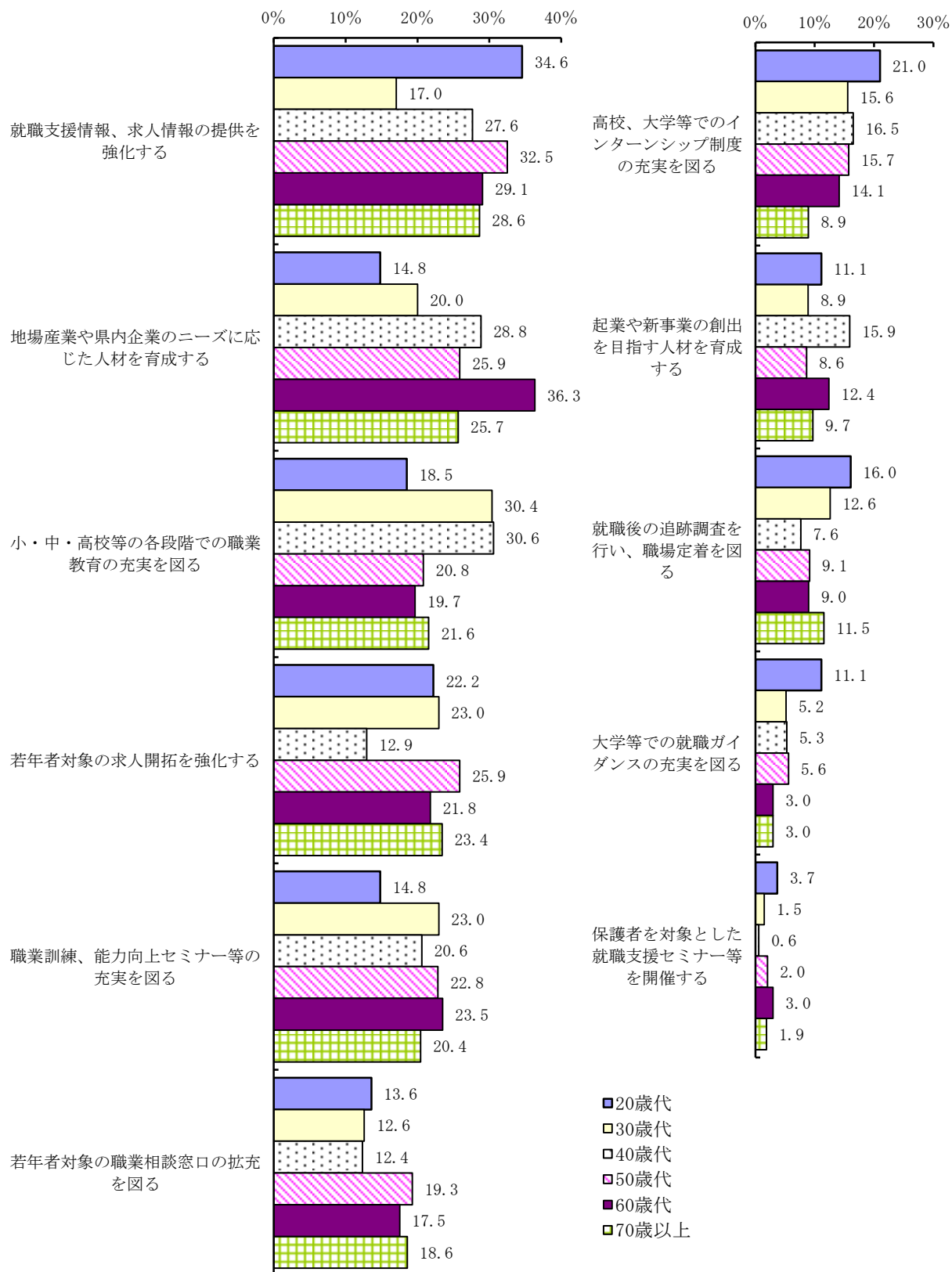
県内の若年者の就職促進、離職防止を図るためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「就職支援情報、求人情報の提供を強化する」と答えた人の割合が28.3%と最も多く、以下「地場産業や県内企業のニーズに応じた人材を育成する」（27.0%）、「小・中・高校等の各段階での職業教育の充実を図る」（23.0%）、「若年者対象の求人開拓を強化する」（21.9%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、多少の増減はあるが全ての項目で大きな変化はみられない。



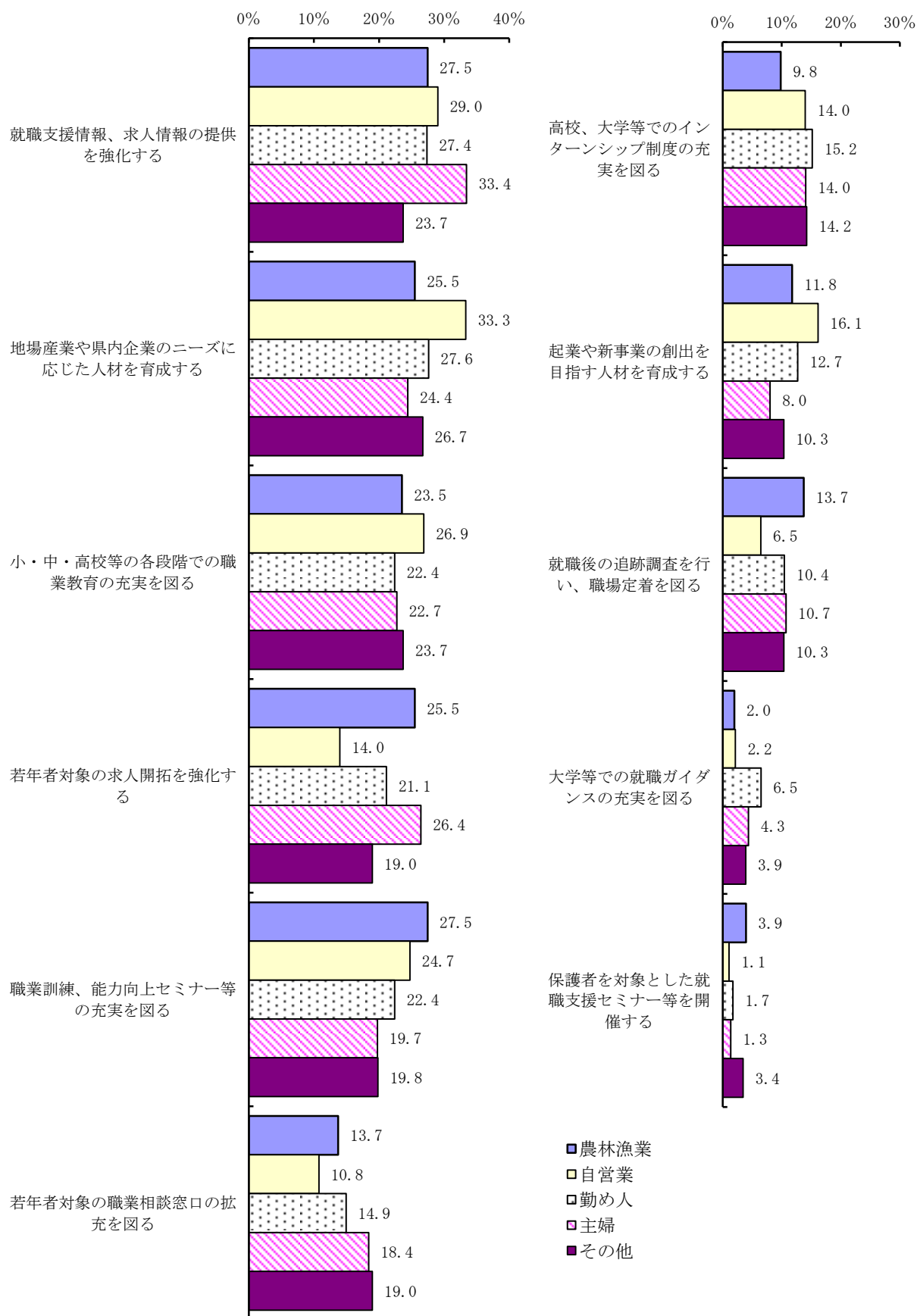
【年齢別】

年齢別にみると、20歳代、50歳代及び70歳以上では「就職支援情報、求人情報の提供を強化する」と答えた人の割合が最も多い。60歳代では「地場産業や県内企業のニーズに応じた人材を育成する」が最も多く、他の年齢層と比較しても特に多くなっている。30歳代及び40歳代では「小・中・高校等の各段階での職業教育の充実を図る」が最も多く、他の年齢層と比較しても特に多くなっている。



【職業別】

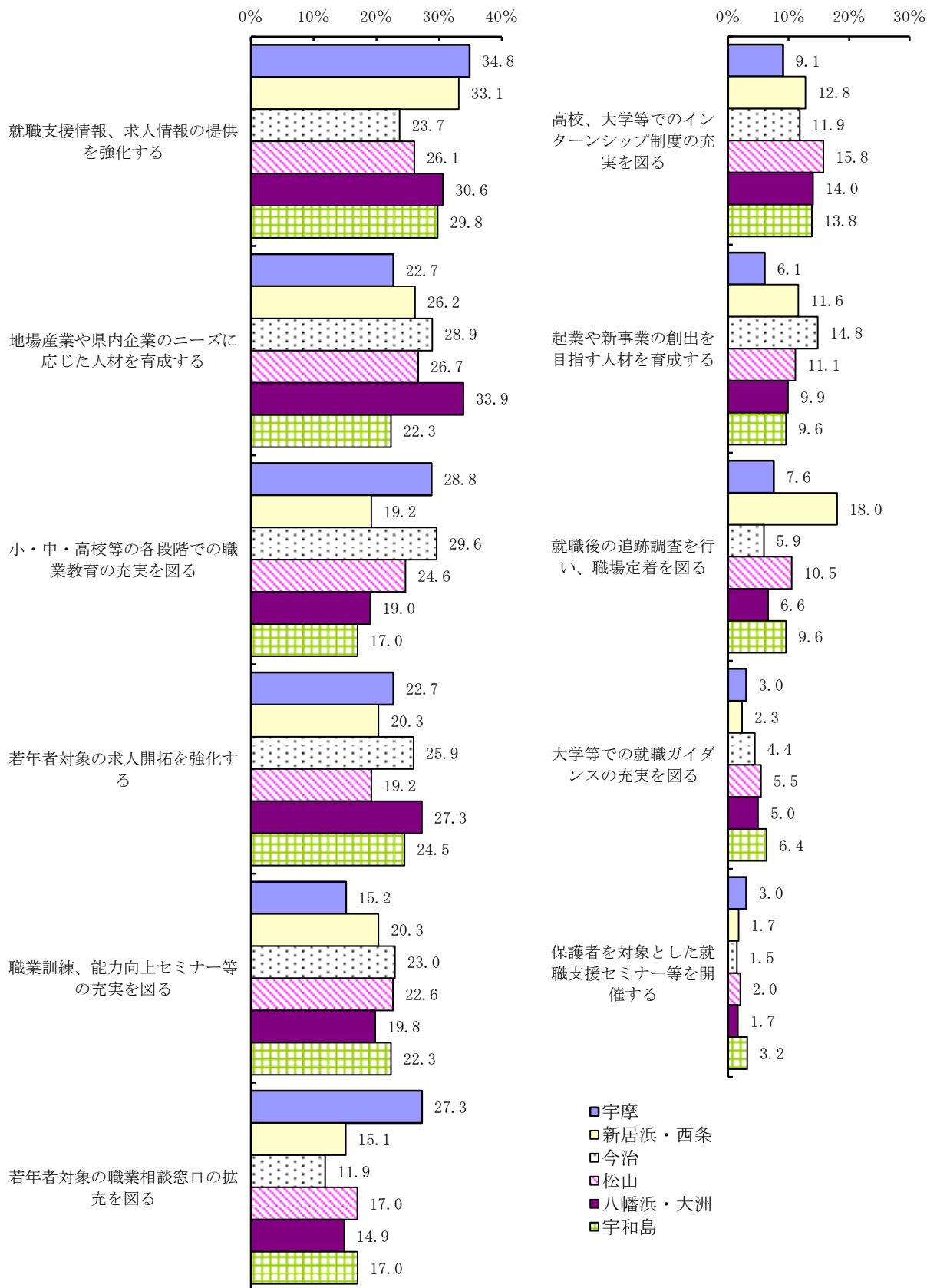
職業別にみると、農林漁業及び主婦では「就職支援情報、求人情報の提供を強化する」と答えた人の割合が最も多いが、農林漁業では「職業訓練、能力向上セミナー等の充実を図る」も同率で最も多い。自営業、勤め人及びその他では「地場産業や県内企業のニーズに応じた人材を育成する」が最も多く、自営業が33.3%と特に多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域、新居浜・西条圏域及び宇和島圏域で「就職支援情報、求人情報の提供を強化する」と答えた人の割合が最も多い。松山圏域及び八幡浜・大洲圏域では、「地場産業や県内企業のニーズに応じた人材を育成する」が最も多くなっているが、八幡浜・大洲圏域では他の圏域と比較しても特に多い。

また、「若年者対象の職業相談窓口の拡充を図る」と答えた人の割合は、宇摩圏域（27.3%）で他の圏域と比較して特に多く、「就職後の追跡調査を行い、職場定着を図る」は新居浜・西条圏域（18.0%）で他の圏域と比較して特に多くなっている。



問28 観光対策

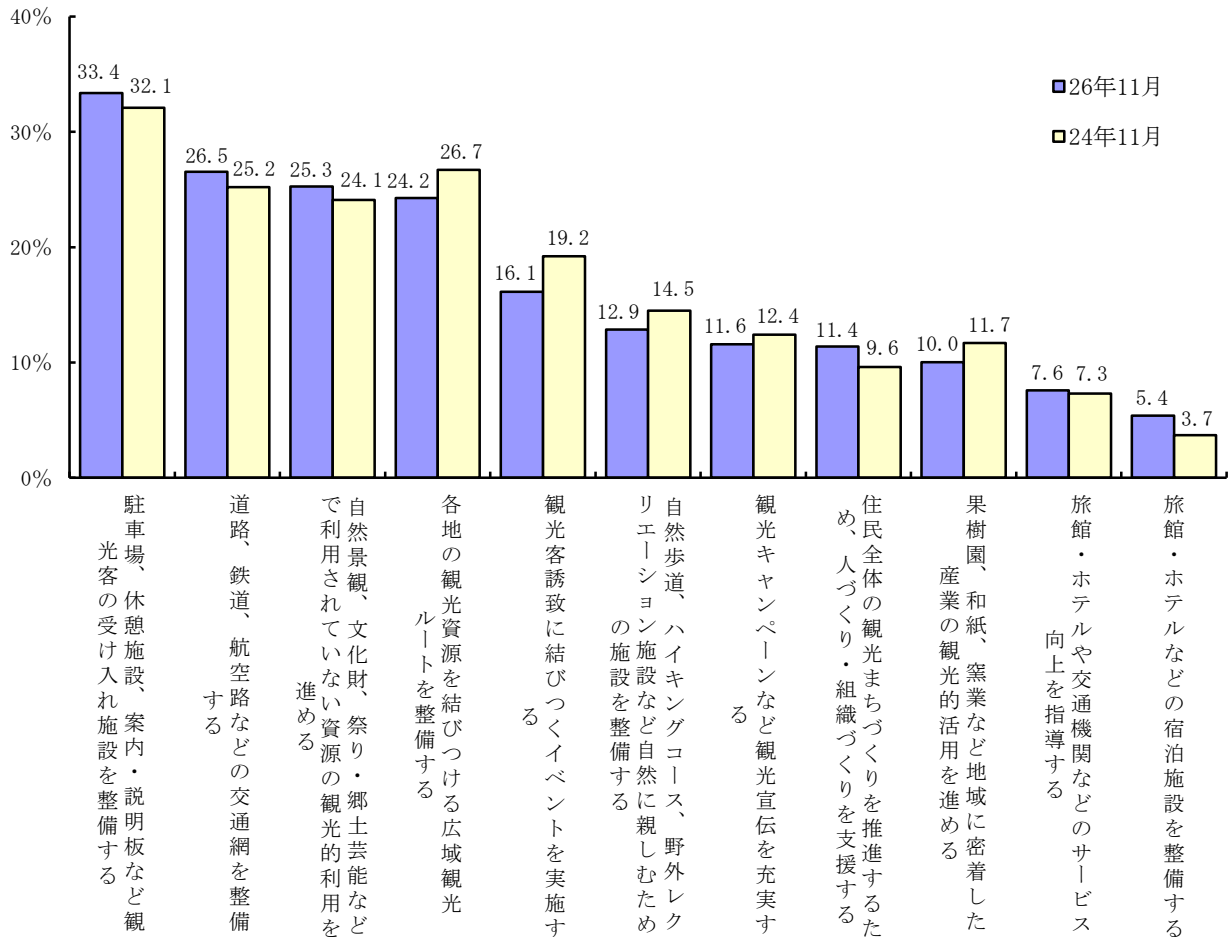
あなたは、愛媛県の観光を振興するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

(複数回答) (%)

1	道路、鉄道、航空路などの交通網を整備する	26.5
2	駐車場、休憩施設、案内・説明板など観光客の受け入れ施設を整備する	33.4
3	自然歩道、ハイキングコース、野外レクリエーション施設など自然に親しむための施設を整備する	12.9
4	旅館・ホテルなどの宿泊施設を整備する	5.4
5	旅館・ホテルや交通機関などのサービス向上を指導する	7.6
6	各地の観光資源を結びつける広域観光ルートを整備する	24.2
7	自然景観、文化財、祭り・郷土芸能などで利用されていない資源の観光的利用を進める	25.3
8	果樹園、和紙、窯業など地域に密着した産業の観光的活用を進める	10.0
9	観光キャンペーンなど観光宣伝を充実する	11.6
10	観光客誘致に結びつくイベントを実施する	16.1
11	住民全体の観光まちづくりを推進するため、人づくり・組織づくりを支援する	11.4
12	その他	1.9
13	わからない	4.5

愛媛県の観光振興のためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「駐車場、休憩施設、案内・説明板など観光客の受け入れ施設を整備する」と答えた人の割合が33.4%で最も多く、以下「道路、鉄道、航空路などの交通網を整備する」(26.5%)、「自然景観、文化財、祭り・郷土芸能などで利用されていない資源の観光的利用を進める」(25.3%)、「各地の観光資源を結びつける広域観光ルートを整備する」(24.2%)などの順となっている。

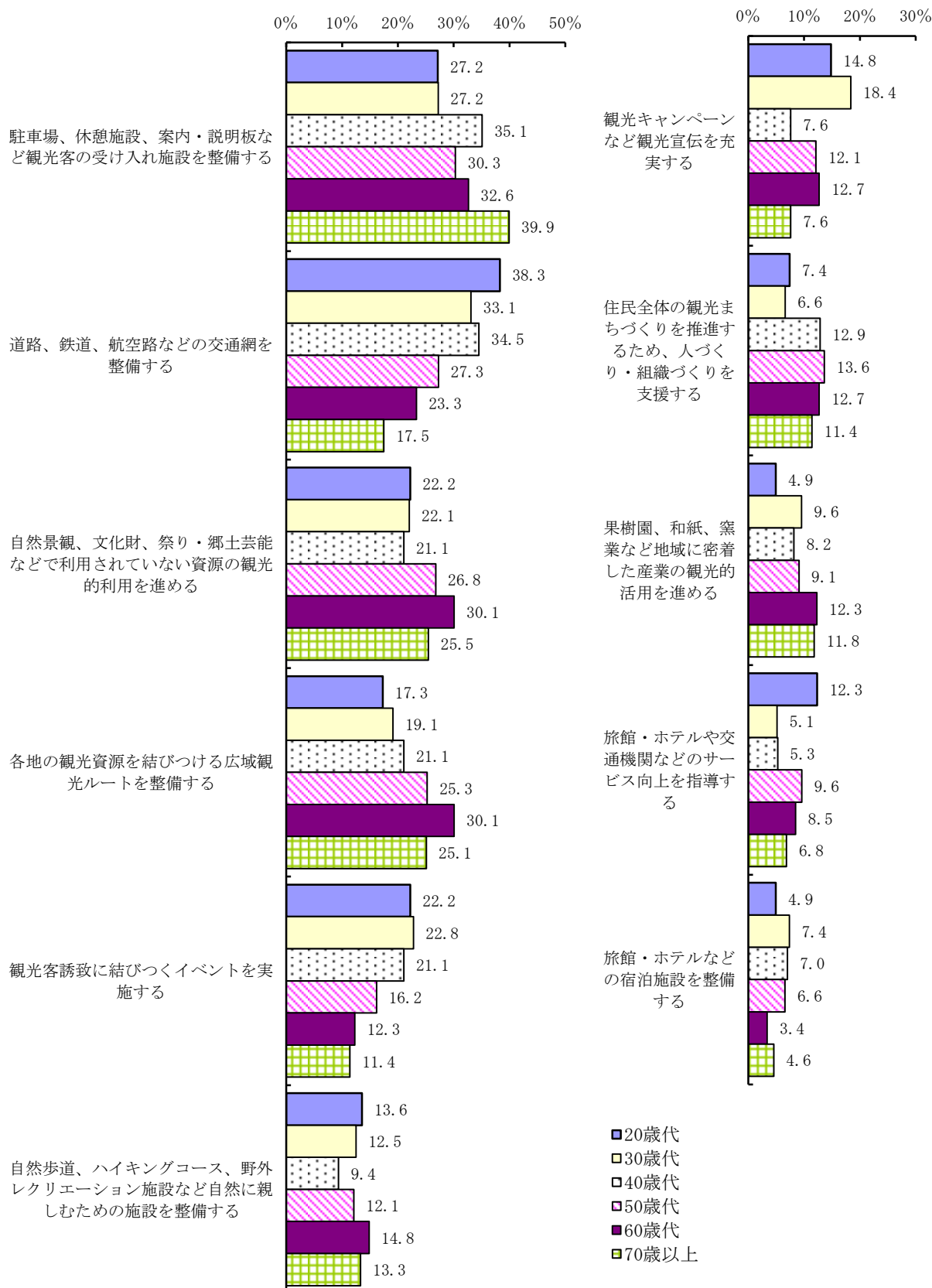
前回調査と比較すると、「観光客誘致に結びつくイベントを実施する」が3.1ポイント減少しているのを除いて、多少の増減はあるが全ての項目で大きな変化は見られない。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳以上の年齢層では「駐車場、休憩施設、案内・説明板など観光客の受け入れ施設を整備する」と答えた人の割合が最も多い。30歳代以下では「道路、鉄道、航空路などの交通網を整備する」と答えた人の割合が最も多く、概ね年齢層が低い方が多くなっている。

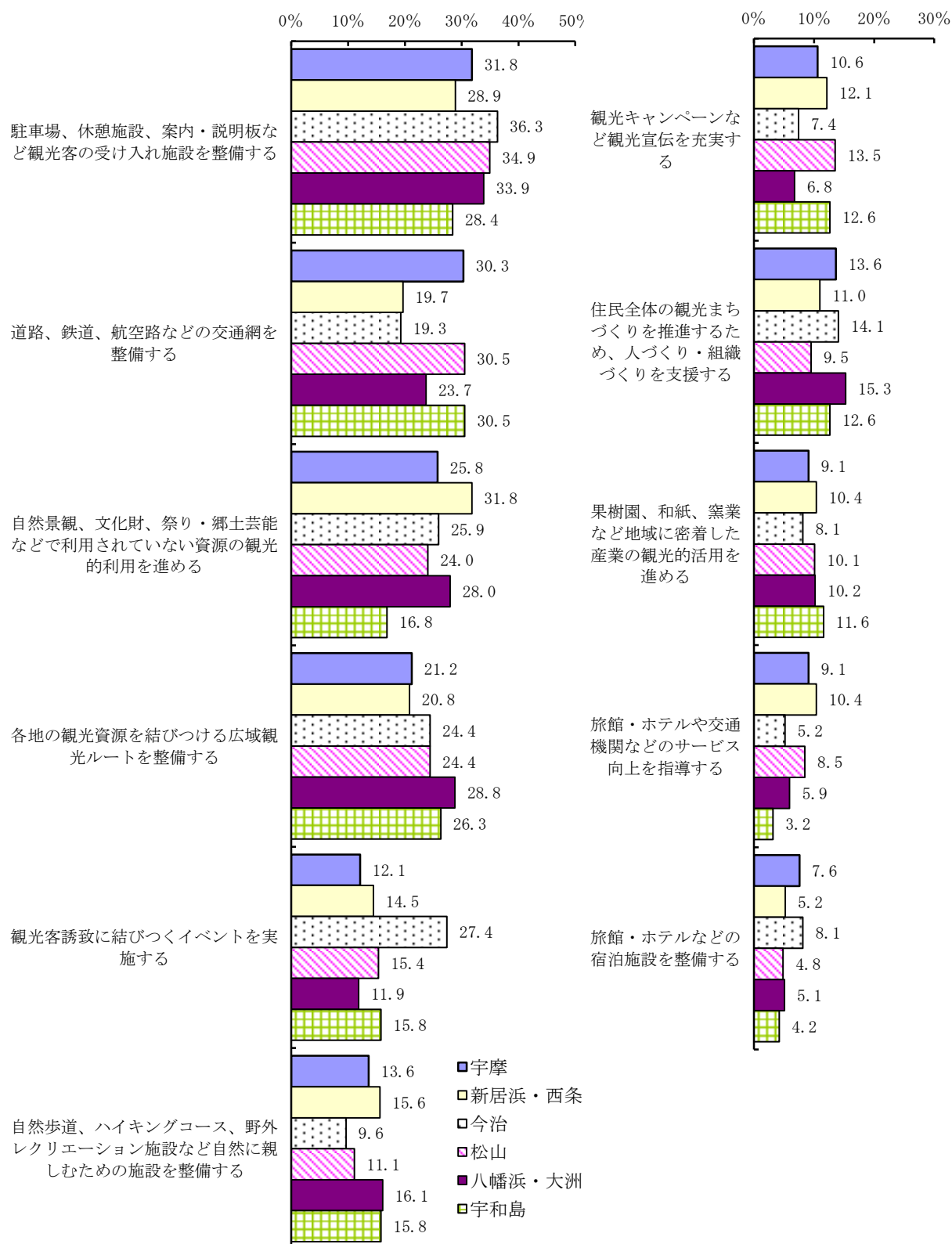
また、「各地の観光資源を結びつける広域観光ルートを整備する」と答えた人の割合は、概ね年齢層が高い方が多くなっている一方、「観光客誘致に結びつくイベントを実施する」は、概ね年齢層が低い方が多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で「駐車場、休憩施設、案内・説明板など観光客の受け入れ施設を整備する」と答えた人の割合が最も多くなっている。宇和島圏域では「道路、鉄道、航空路などの交通網を整備する」が最も多く、新居浜・西条圏域では「自然景観、文化財、祭り・郷土芸能などで利用されていない資源の観光的利用を進める」が最も多い。

また、今治圏域では「観光客誘致に結びつくイベントを実施する」が、他の圏域と比較して特に多くなっている。

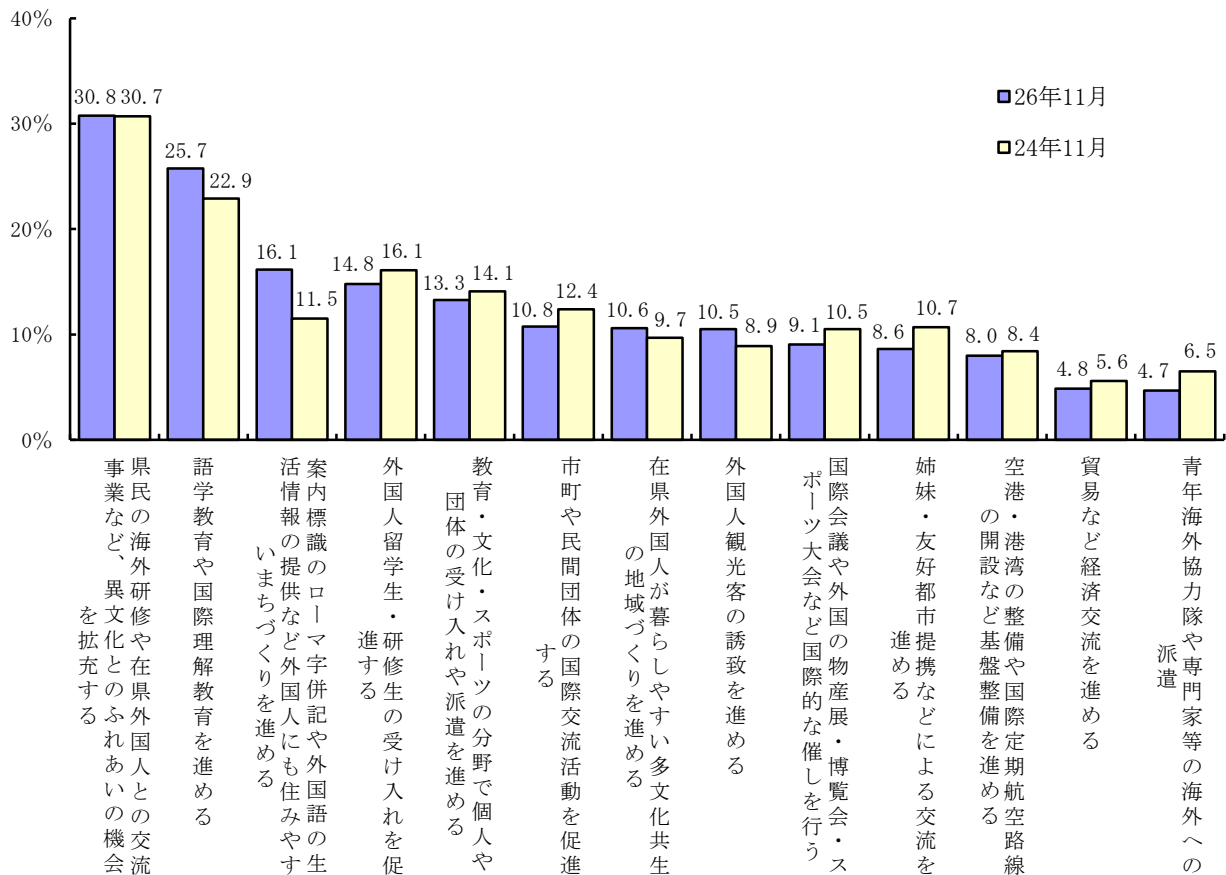


問 2 9 国際化対策

あなたは、今後、地域の国際化を進めていくうえで、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から**二つまで選んで**番号を○で囲んでください。
(複数回答) (%)

1 県民の海外研修や在県外国人との交流事業など、異文化とのふれあいの機会を拡充する	30.8
2 語学教育や国際理解教育を進める	25.7
3 青年海外協力隊や専門家等の海外への派遣	4.7
4 外国人留学生・研修生の受け入れを促進する	14.8
5 市町や民間団体の国際交流活動を促進する	10.8
6 教育・文化・スポーツの分野で個人や団体の受け入れや派遣を進める	13.3
7 貿易など経済交流を進める	4.8
8 案内標識のローマ字併記や外国語の生活情報の提供など外国人にも住みやすいまちづくりを進める	16.1
9 国際会議や外国の物産展・博覧会・スポーツ大会など国際的な催しを行う	9.1
10 外国人観光客の誘致を進める	10.5
11 空港・港湾の整備や国際定期航空路線の開設など基盤整備を進める	8.0
12 姉妹・友好都市提携などによる交流を進める	8.6
13 在県外国人が暮らしやすい多文化共生の地域づくりを進める	10.9
14 その他	1.1
15 わからない	12.1

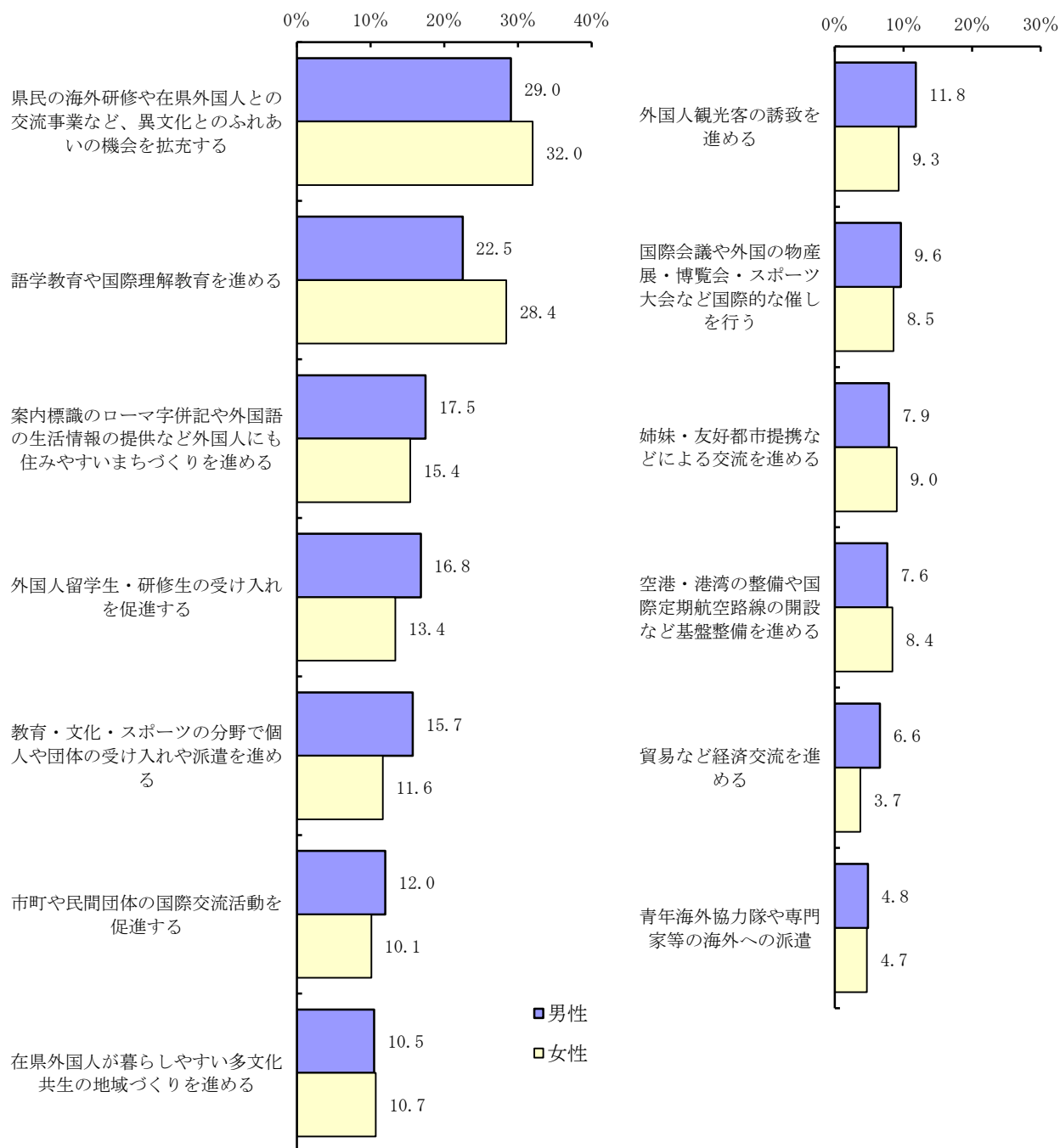
地域の国際化を進めていくうえで、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「県民の海外研修や在県外国人との交流事業など、異文化とのふれあいの機会を拡充する」と答えた人の割合が30.8%で最も多く、以下「語学教育や国際理解教育を進める」(25.7%)、「案内標識のローマ字併記や外国語の生活情報の提供など外国人にも住みやすいまちづくりを進める」(16.1%)、「外国人留学生・研修生の受け入れを促進する」(14.8%)などの順となっている。
前回調査と比較すると、「案内標識のローマ字併記や外国語の生活情報の提供など外国人にも住みやすいまちづくりを進める」と答えた人の割合が4.6ポイント増加している。



【性別】

性別にみると、男女共に「県民の海外研修や在県外国人との交流事業など、異文化とのふれあいの機会を拡充する」と答えた人の割合が最も多くなっている。（男性29.0%、女性32.0%）

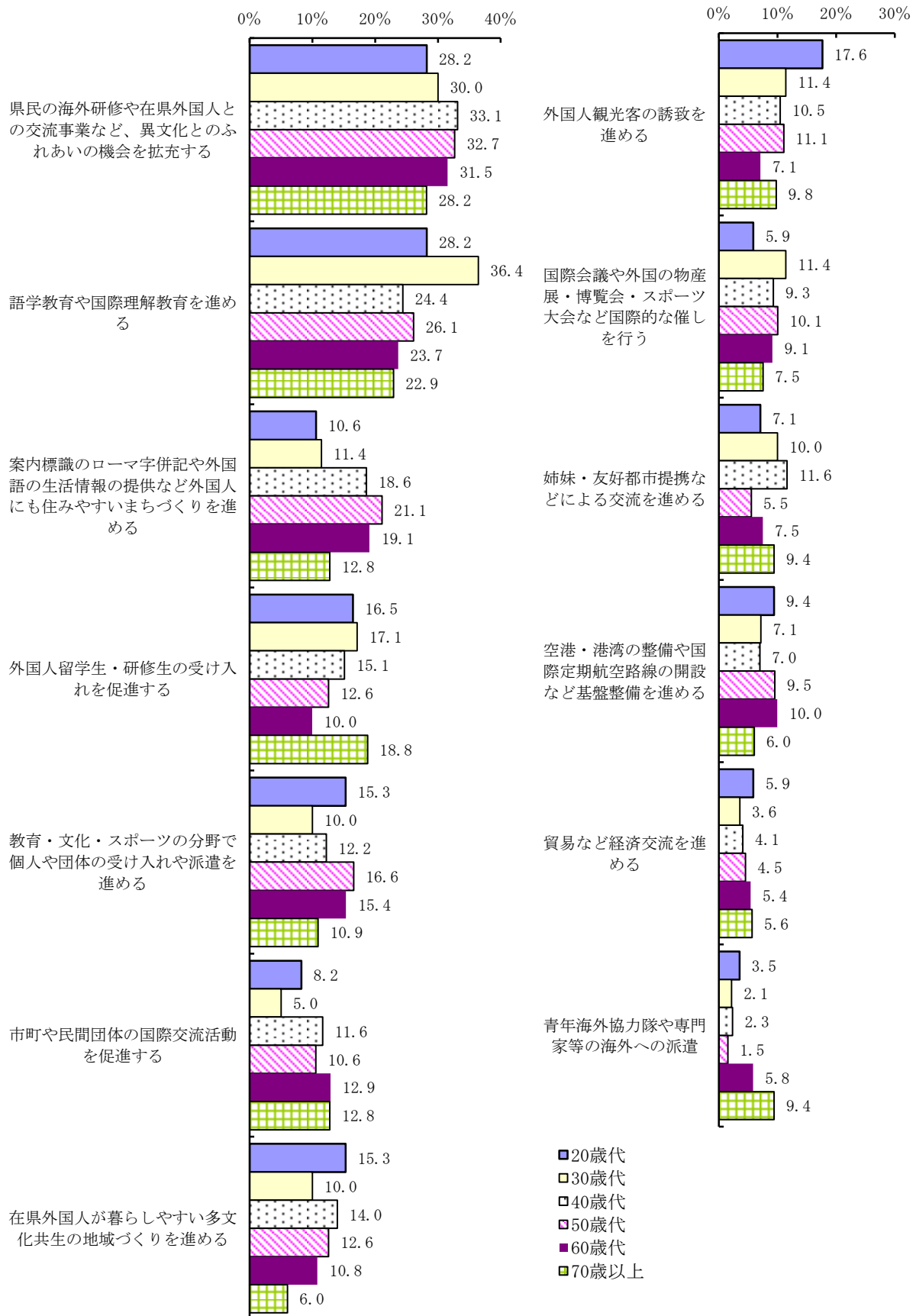
また、「語学教育や国際理解教育を進める」と答えた人の割合は、女性（28.4%）が男性（22.5%）より5.9ポイント多く、「教育・文化・スポーツの分野で個人や団体の受け入れや派遣を進める」は男性（15.7%）が女性（11.6%）より4.1ポイント多い。



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代を除く全ての年齢層で「県民の海外研修や在県外国人との交流事業など、異文化とのふれあいの機会を拡充する」と答えた人の割合が最も多いが、20歳代では「語学教育や国際理解教育を進める」も同率で最も多い。30歳代では「語学教育や国際理解教育を進める」が最も多く、他の年齢層と比較しても特に多い。

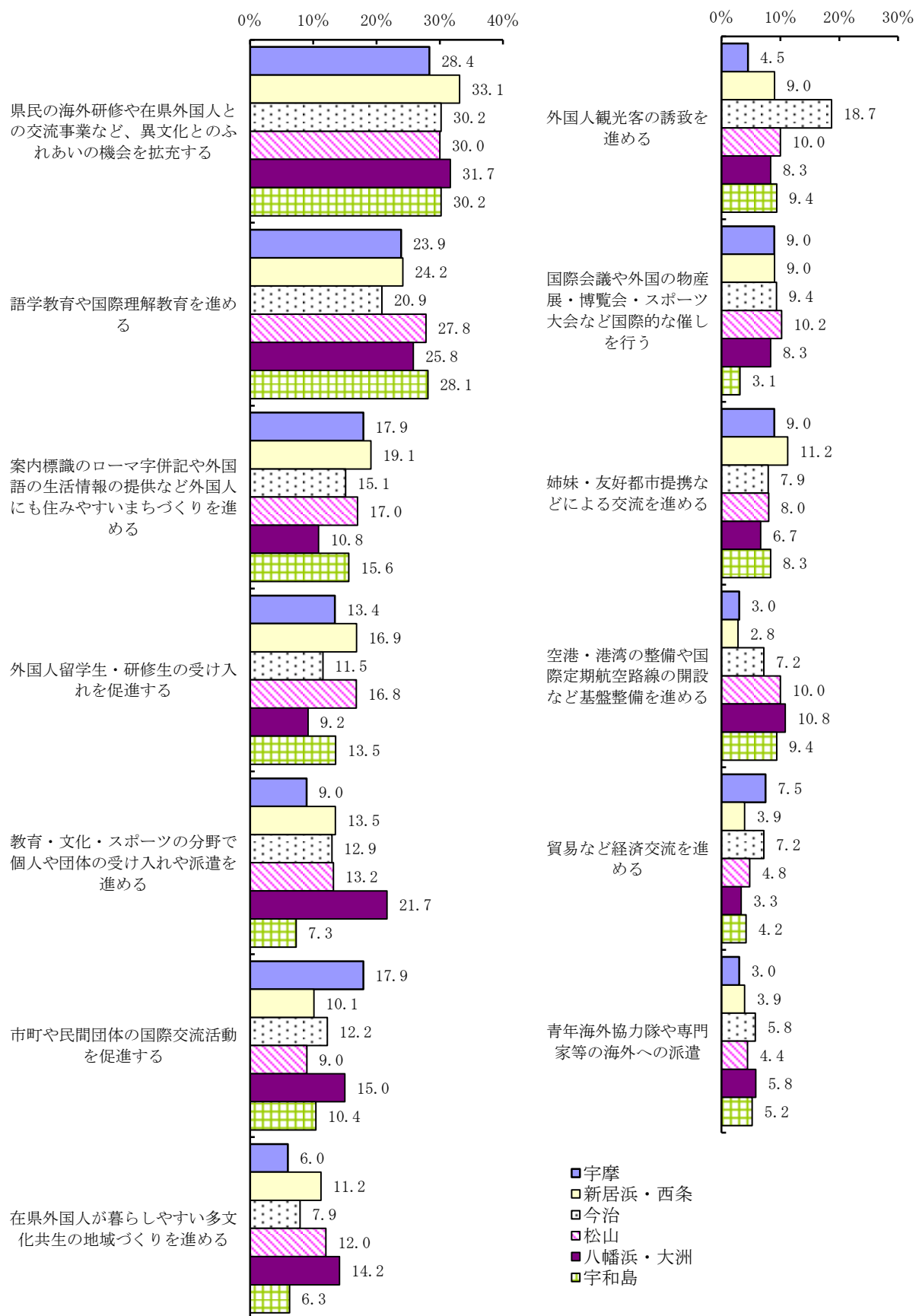
また、「外国人観光客の誘致を進める」と答えた人の割合は、20歳代（17.6%）で他の年齢層と比較して多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「県民の海外研修や在県外国人との交流事業など、異文化とのふれあいの機会を拡充する」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「教育・文化・スポーツの分野で個人や団体の受け入れや派遣を進める」と答えた人の割合は、八幡浜・大洲圏域（21.7%）で、「外国人観光客の誘致を進める」は、今治圏域（18.7%）で他の圏域と比較して多くなっている。



問30 公共交通機関対策

あなたは、公共交通機関の整備促進のために、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から**二つまで選んで**番号を○で囲んでください。

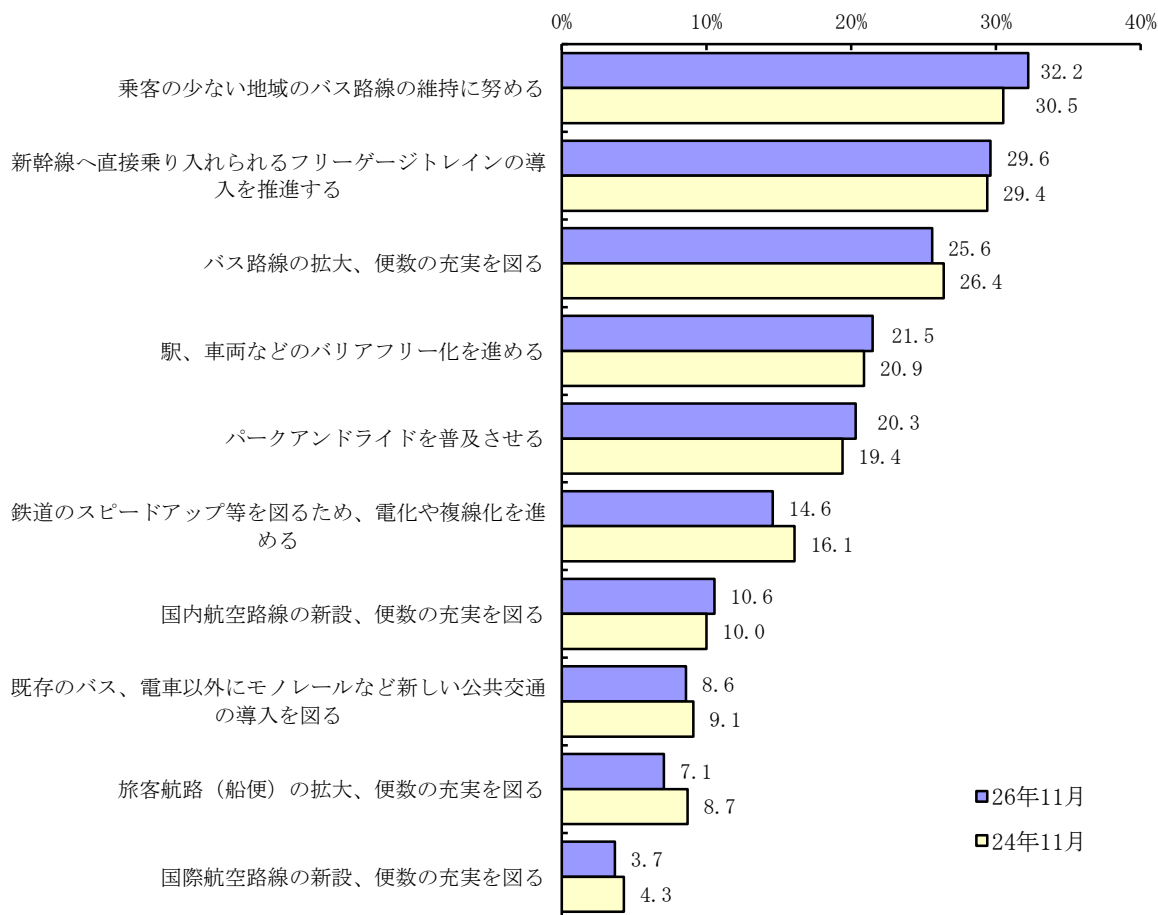
(複数回答) (%)

1 鉄道のスピードアップ等を図るため、電化や複線化を進める	14.6
2 新幹線へ直接乗り入れられるフリーゲージトレイン（軌間可変電車）の導入を推進する	29.6
3 バス路線の拡大、便数の充実を図る	25.6
4 乗客の少ない地域のバス路線の維持に努める	32.2
5 旅客航路（船便）の拡大、便数の充実を図る	7.1
6 国内航空路線の新設、便数の充実を図る	10.6
7 国際航空路線の新設、便数の充実を図る	3.7
8 既存のバス、電車以外にモノレールなど新しい公共交通の導入を図る	8.6
9 駅、車両などのバリアフリー化を進める	21.5
10 パークアンドライド(注)を普及させる	20.3
11 その他	1.9
12 わからない	7.4

(注) 郊外の鉄道駅・バス停周辺の駐車場にマイカーを止め、そこから公共交通機関に乗り換えるシステム。渋滞緩和に効果がある。

公共交通機関の整備促進のために、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「乗客の少ない地域のバス路線の維持に努める」と答えた人の割合が32.2%で最も多く、以下「新幹線へ直接乗り入れられるフリーゲージトレインの導入を推進する」（29.6%）、「バス路線の拡大、便数の充実を図る」（25.6%）、「駅、車両などのバリアフリー化を進める」（21.5%）などの順となっている。

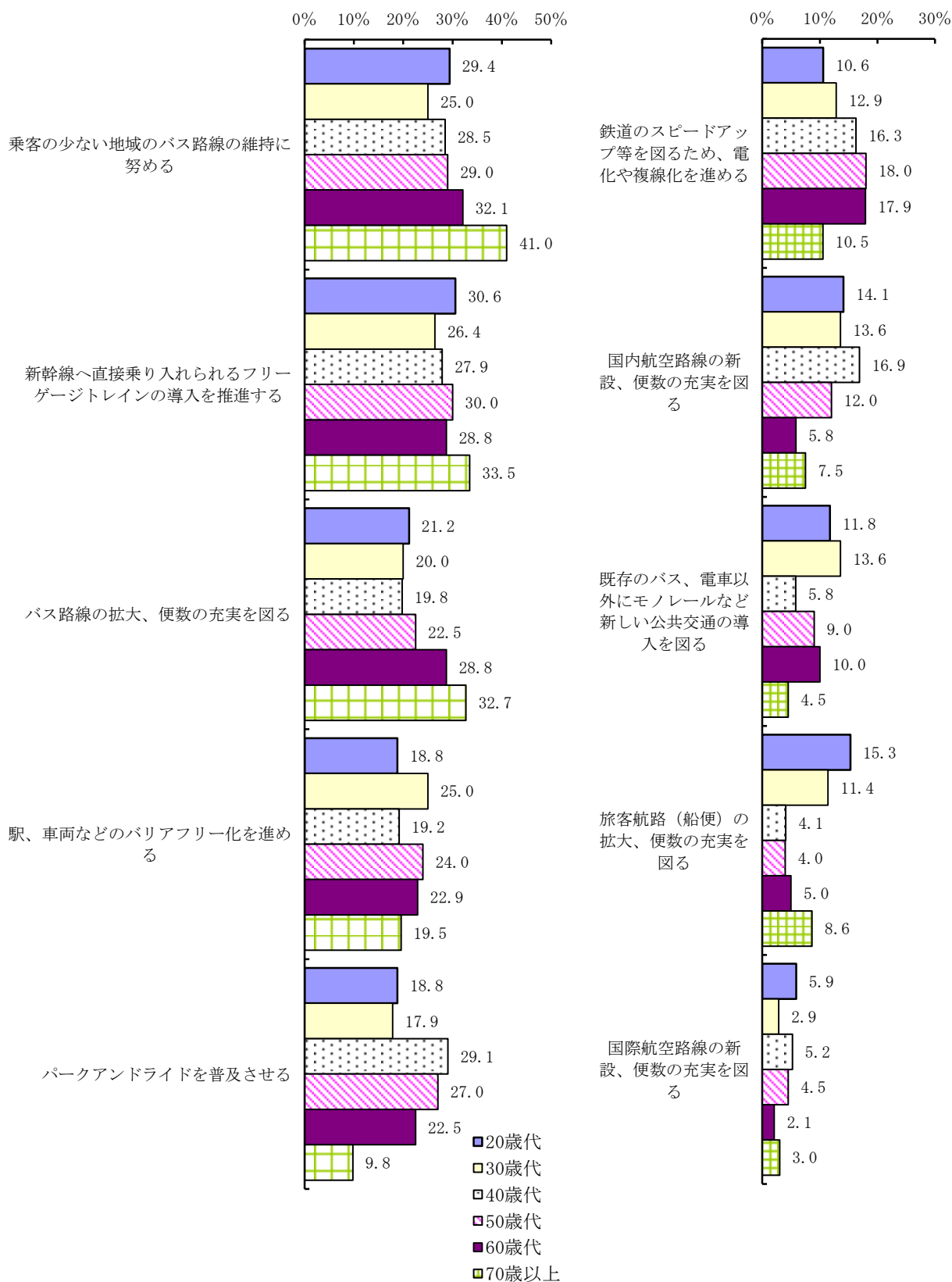
前回調査と比較すると、多少の増減はあるが全ての項目で大きな変化はみられない。



【年齢別】

年齢別にみると、60歳代以上では「乗客の少ない地域のバス路線の維持に努める」と答えた人の割合が最も多く、20歳代、30歳代及び50歳代では「新幹線へ直接乗り入れられるフリーゲージトレインの導入を推進する」が最も多く、40歳代では「パークアンドライドを普及させる」が最も多くなっている。

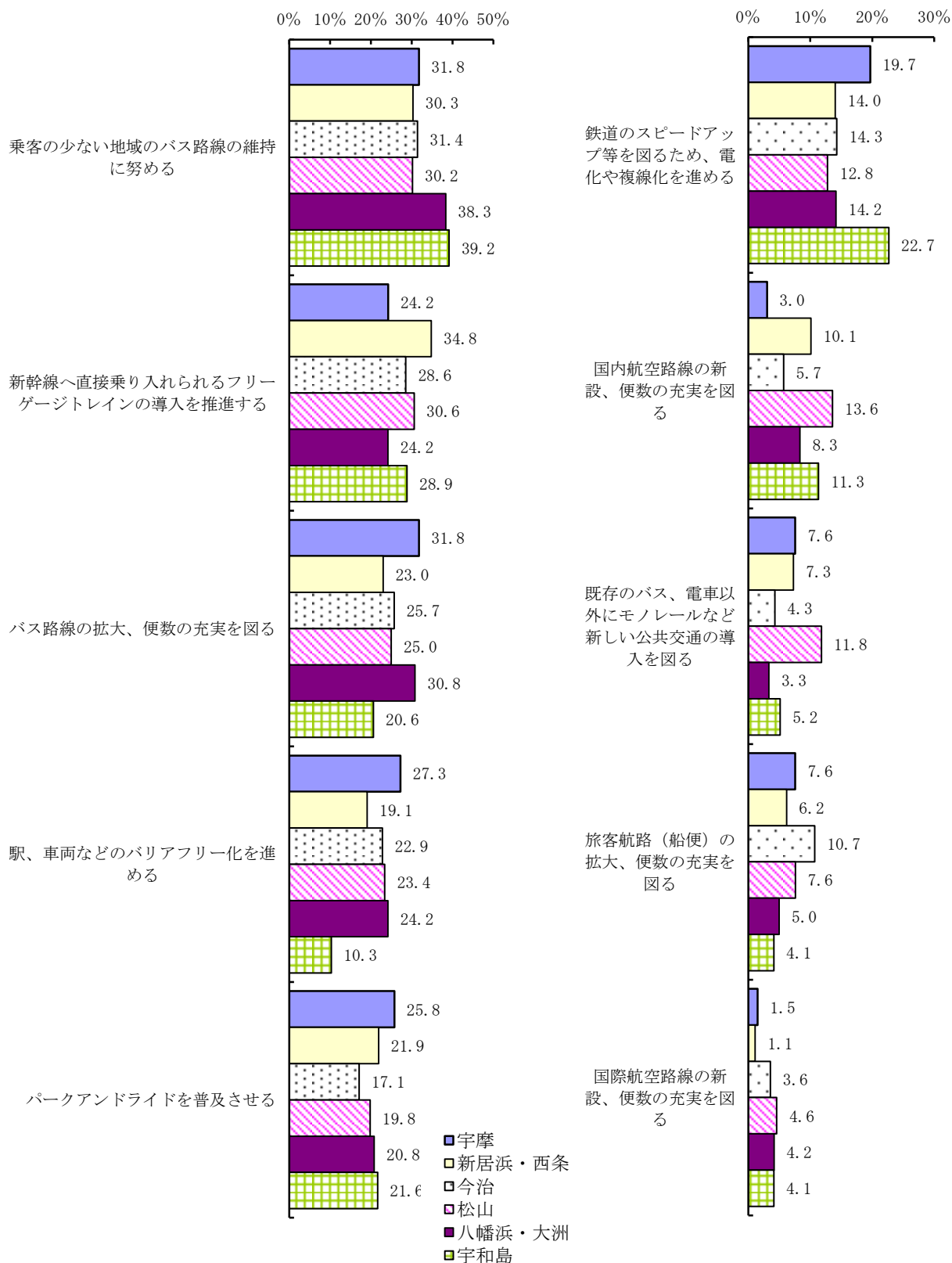
また、「乗客の少ない地域のバス路線の維持に努める」と答えた人の割合は、70歳以上（41.0%）で他の年齢層と比較して特に多く、「パークアンドライドを普及させる」は70歳以上（9.8%）で他の年齢層と比較して特に少なくなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域及び松山圏域を除く全ての圏域で「乗客の少ない地域のバス路線の維持に努める」と答えた人の割合が最も多いが、宇摩圏域では「バス路線の拡大、便数の充実を図る」も同率で最も多い。新居浜・西条圏域及び松山圏域では「新幹線へ直接乗り入れられるフリーゲージトレインの導入を推進する」が最も多くなっている。

また、「乗客の少ない地域のバス路線の維持に努める」と答えた人の割合は、八幡浜・大洲圏域（38.3%）及び宇和島圏域（39.2%）で他の圏域と比較して特に多く、「駅、車両などのバリアフリー化を進める」は宇和島圏域（10.3%）で他の圏域と比較して特に少なくなっている。



問3 1 道路交通対策

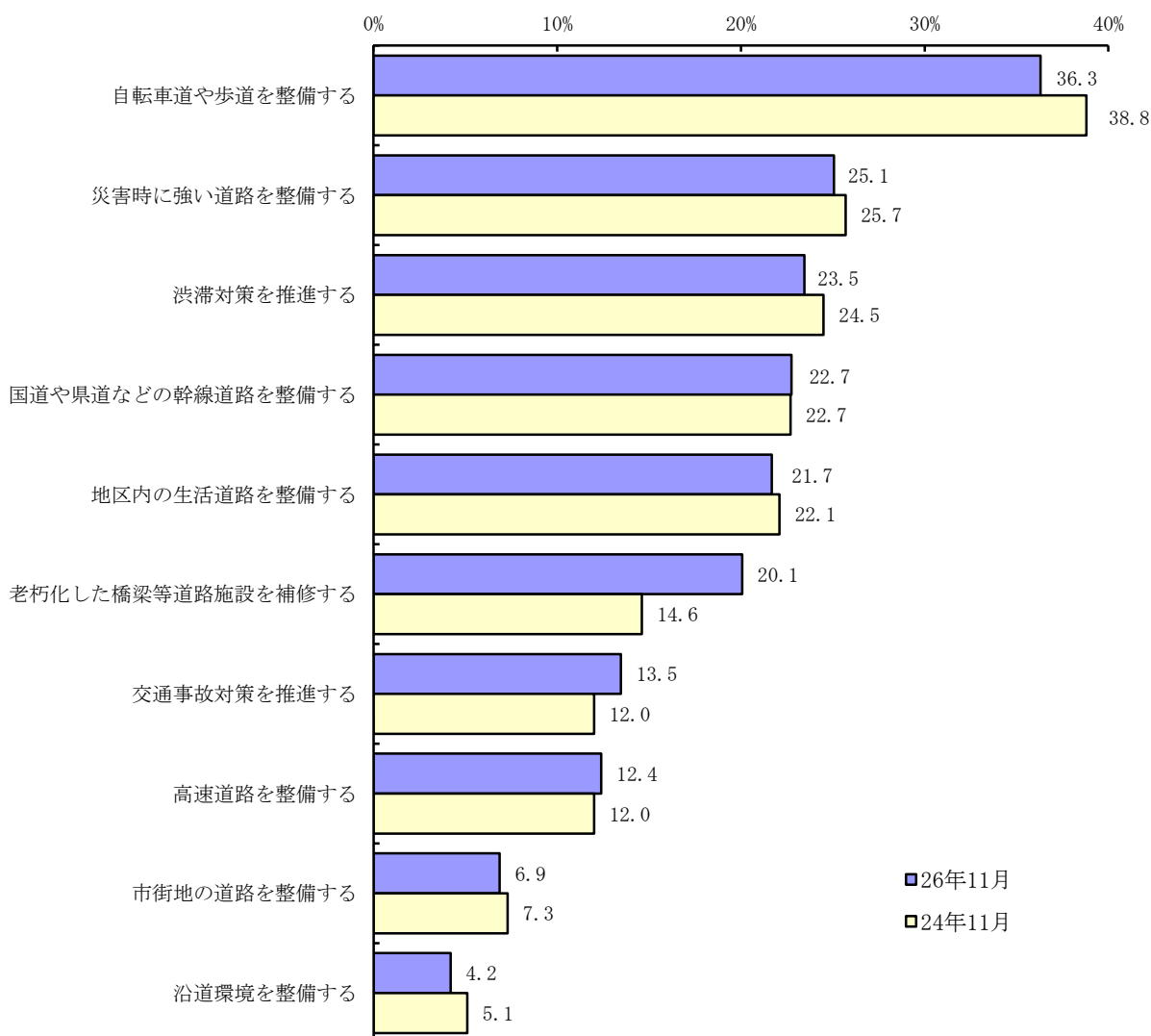
あなたは、道路交通対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から**二つまで選んで**番号を○で囲んでください。

(複数回答) (%)

1	高速道路を整備する	12.4
2	国道や県道などの幹線道路を整備する	22.7
3	地区内の生活道路を整備する	21.7
4	市街地の道路を整備する	6.9
5	災害時に強い道路を整備する	25.1
6	自転車道や歩道を整備する	36.3
7	沿道環境を整備する	4.2
8	渋滞対策を推進する	23.5
9	交通事故対策を推進する	13.5
10	老朽化した橋梁等道路施設を補修する	20.1
11	その他	1.0
12	わからない	3.5

道路交通対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「自転車道や歩道を整備する」と答えた人の割合が36.3%で最も多く、以下「災害時に強い道路を整備する」(25.1%)、「渋滞対策を推進する」(23.5%)、「国道や県道などの幹線道路を整備する」(22.7%)などの順となっている。

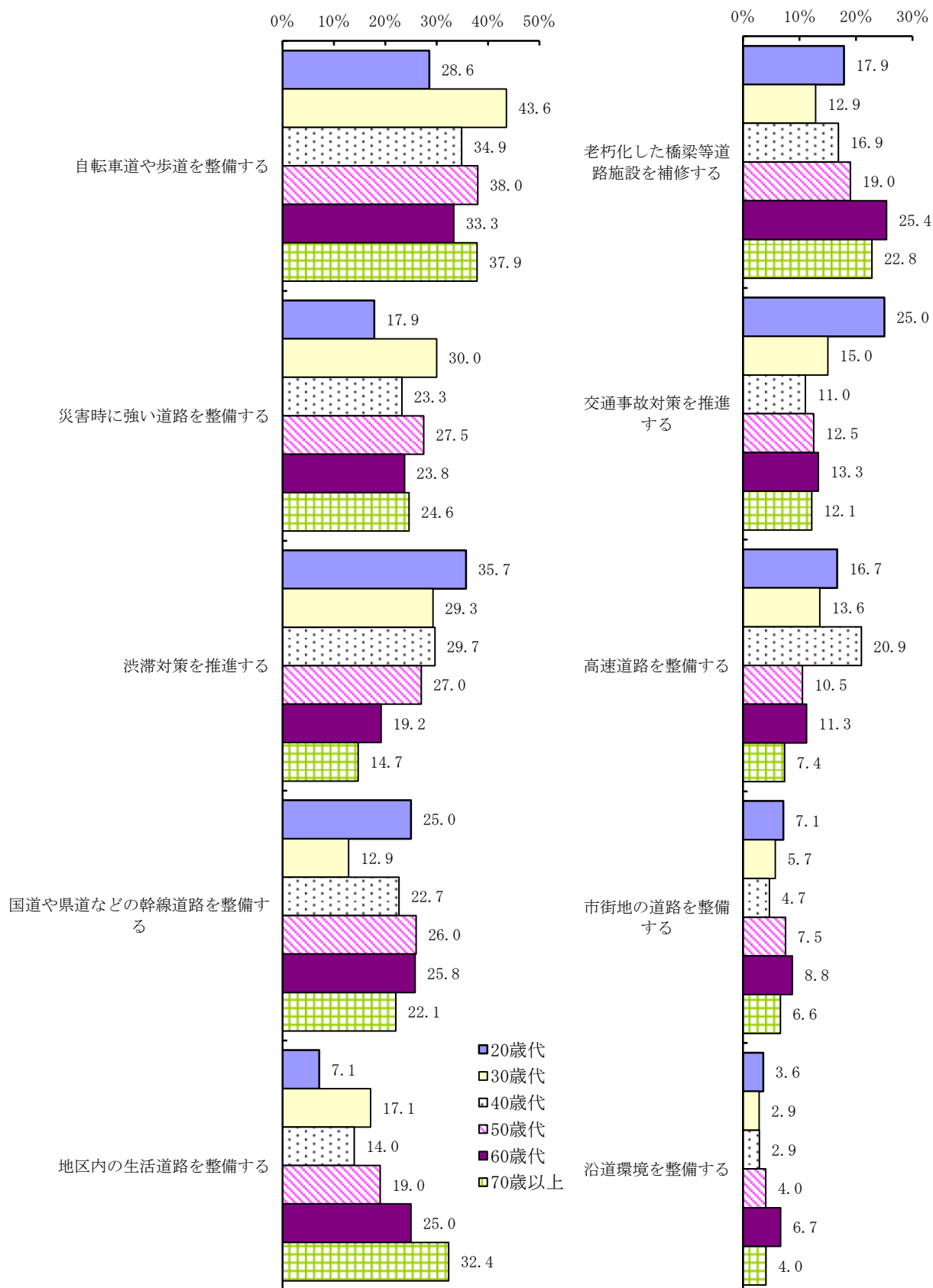
前回調査と比較すると、「老朽化した橋梁等道路施設を補修する」と答えた人の割合は、5.5ポイント増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代を除く全ての年齢層で「自転車道や歩道を整備する」と答えた人の割合が最も多く、20歳代では「渋滞対策を推進する」が最も多くなっている。

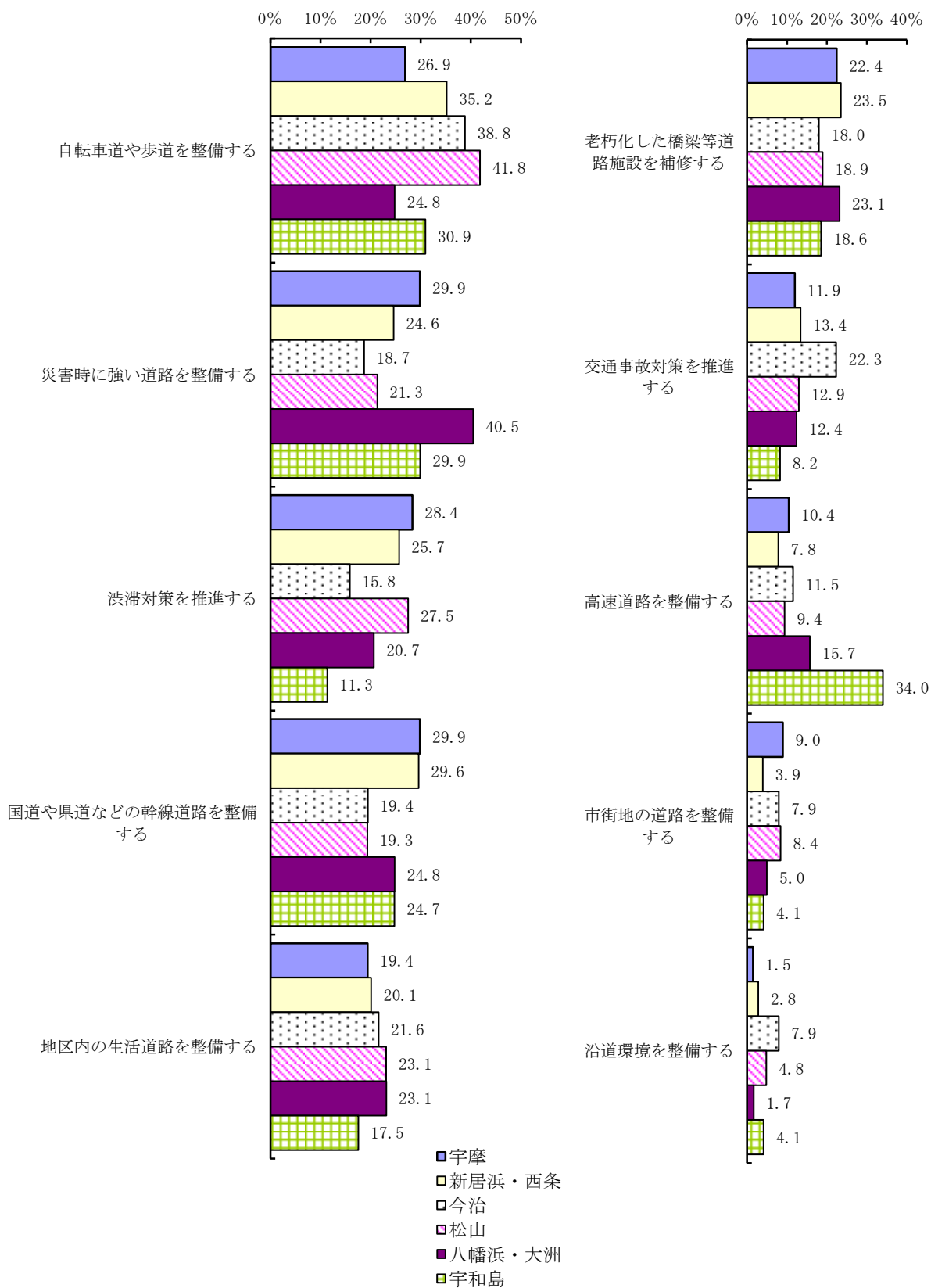
また、「渋滞対策を推進する」と答えた人の割合は、概ね年齢層が低い方が多くなっている一方、「地区内の生活道路を整備する」は、概ね年齢層が高い方が多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域、今治圏域及び松山圏域では「自転車道や歩道を整備する」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域では「災害時に強い道路を整備する」及び「国道や県道などの幹線道路を整備する」が同率で最も多く、八幡浜・大洲圏域では「災害時に強い道路を整備する」が最も多く、宇和島圏域では「高速道路を整備する」が最も多い。

また、「災害時に強い道路を整備する」は、八幡浜・大洲圏域（40.5%）で他の圏域と比較して特に多く、「高速道路を整備する」は、宇和島圏域（34.0%）で他の圏域と比較して特に多くなっている。



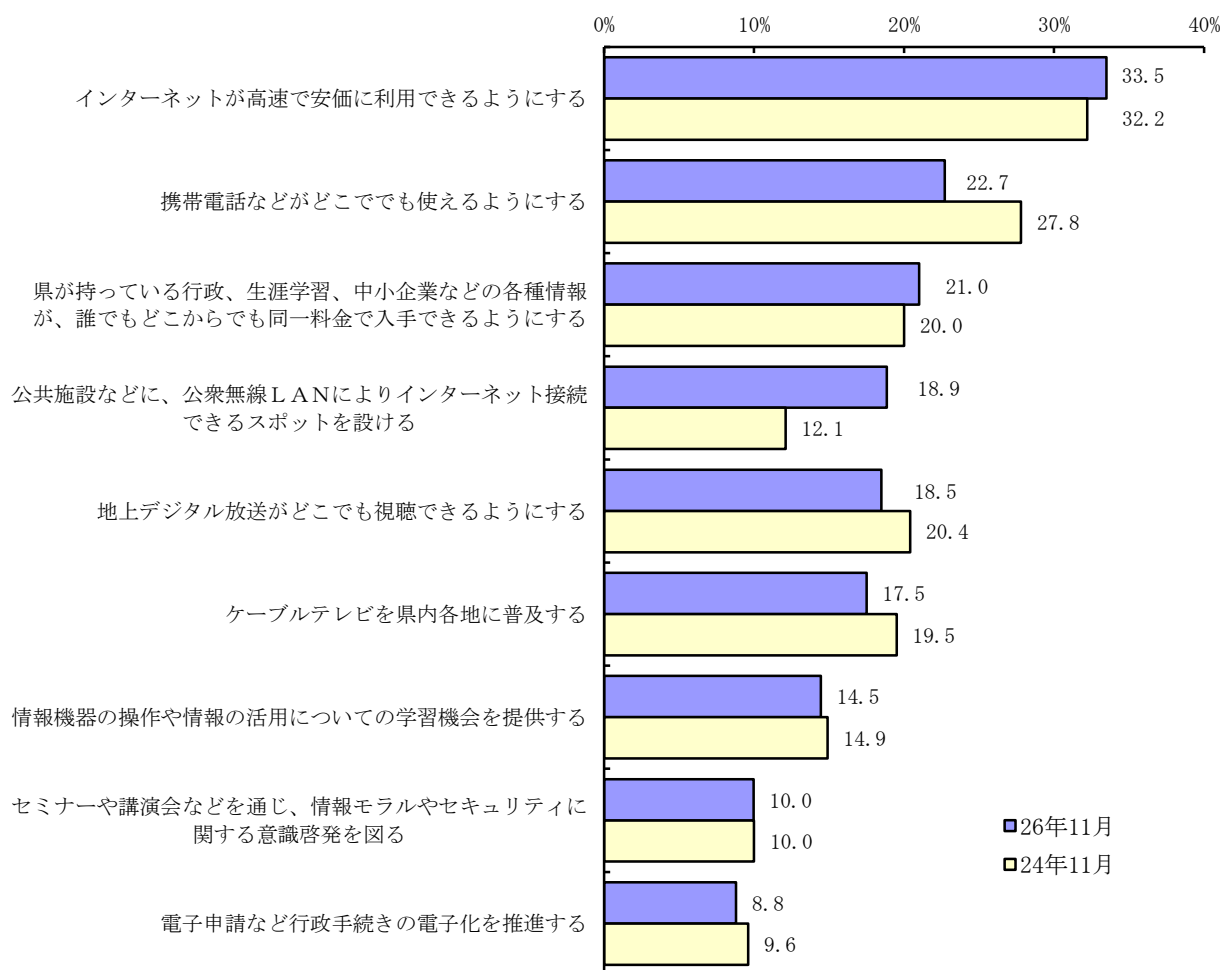
問3 2 地域情報化推進対策

あなたは、地域情報化を推進するためには、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 ケーブルテレビ（CATV）を県内各地に普及する		17.5
2 地上デジタル放送がどこでも視聴できるようにする		18.5
3 携帯電話などがどこでも使えるようにする		22.7
4 インターネットが高速で安価に利用できるようにする		33.5
5 電子申請など行政手続きの電子化を推進する		8.8
6 県が持っている行政、生涯学習、中小企業などの各種情報が、誰でもどこからでも同一料金で入手できるようにする		21.0
7 セミナーや講演会などを通じ、情報モラルやセキュリティに関する意識啓発を図る		10.0
8 情報機器の操作や情報の活用についての学習機会を提供する		14.5
9 公共施設などに、公衆無線LANによりインターネット接続できるスポットを設ける		18.9
10 その他		1.3
11 わからない		11.8

地域情報化推進対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思うかを聞いたところ、「インターネットが高速で安価に利用できるようにする」と答えた人の割合が33.5%で最も多く、以下「携帯電話などがどこでも使えるようにする」（22.7%）、「県が持っている行政、生涯学習、中小企業などの各種情報が、誰でもどこからでも同一料金で入手できるようにする」（21.0%）、「公共施設などに、公衆無線LANによりインターネット接続できるスポットを設ける」（18.9%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、「携帯電話などがどこでも使えるようにする」と答えた人の割合が5.1ポイント減少し、「公共施設などに、公衆無線LANによりインターネット接続できるスポットを設ける」が6.8ポイント増加している。

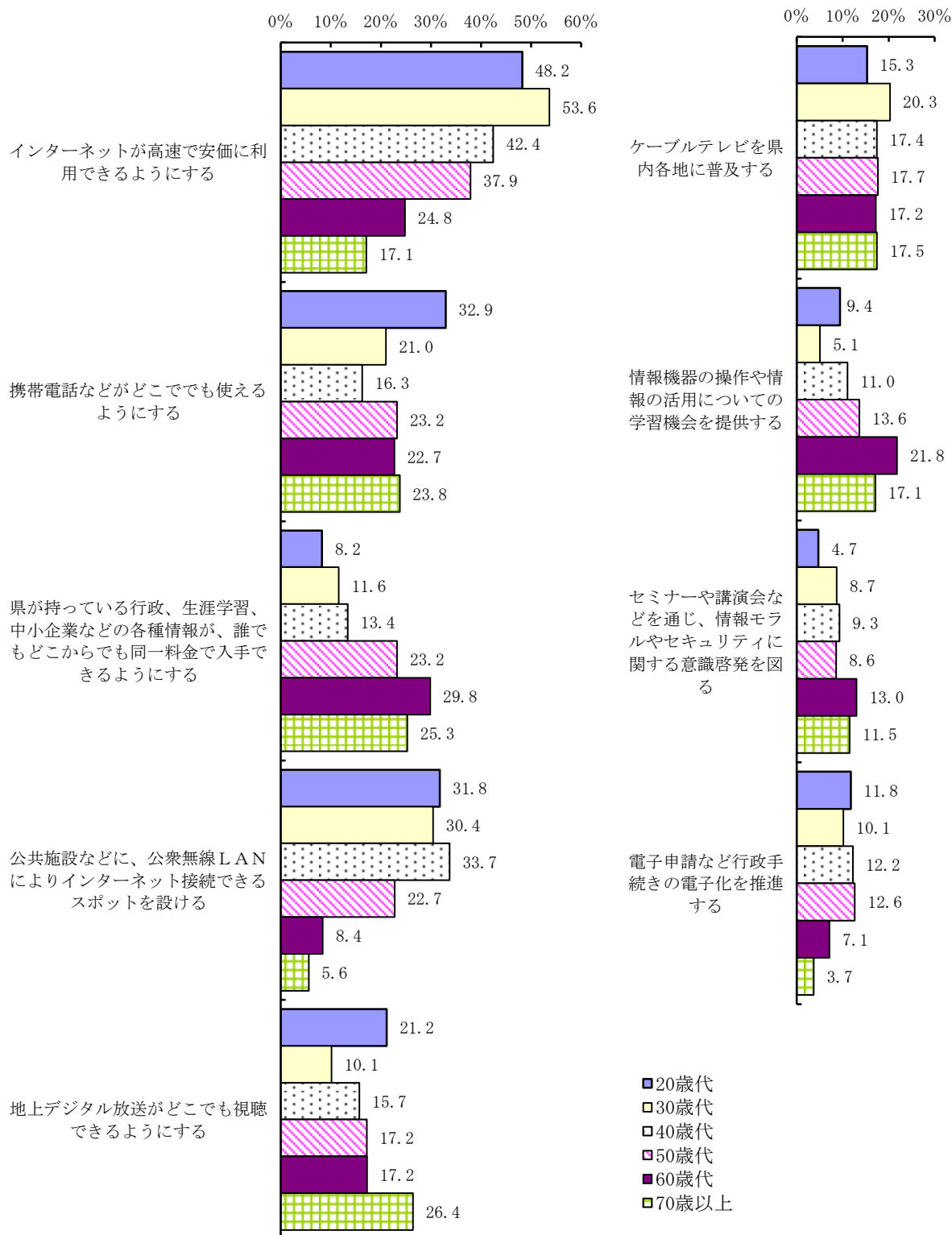


【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以下では「インターネットが高速で安価に利用できるようにする」と答えた人の割合が最も多く、60歳代では「県が持っている行政、生涯学習、中小企業などの各種情報が、誰でもどこからでも同一料金で入手できるようにする」が最も多く、70歳以上では「地上デジタル放送がどこでも視聴できるようにする」が最も多くなっている。

また、「県が持っている行政、生涯学習、中小企業などの各種情報が、誰でもどこからでも同一料金で入手できるようにする」と答えた人の割合は、概ね年齢層が高い方が多くなっている一方、「公共施設などに、公衆無線LANによりインターネット接続できるスポットを設ける」は、概ね年齢層が低い方が多い。

このほか、「携帯電話などがどこでも使えるようにする」と答えた人の割合は、20歳代で他の年齢層と比較して特に多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、八幡浜・大洲圏域を除く全ての圏域で「インターネットが高速で安価に利用できるようにする」と答えた人の割合が最も多い。八幡浜・大洲圏域では「携帯電話などがどこでも使えるようにする」が32.5%で最も多く、他の圏域と比較しても多くなっている。

